

大熊分析・研究センター 施設管理棟の開所

平成30年3月29日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構



大熊分析・研究センター全体概要

- 大熊分析・研究センター(放射性物質分析・研究施設)は、1F事故で発生した放射性廃棄物や燃料デブリの性状等を把握するための施設で、「施設管理棟」、「第1棟」及び「第2棟」から構成され、1Fに隣接した敷地に整備しています。
- 分析作業は、作業員の被ばくを避けるための遮蔽機能をもつセル及び遠隔操作設備(マニピレータ等)や、放射性物質を閉じ込めて取り扱うためのグローブボックス等を使用して行います。
- 分析・研究によって得られたデータは、1Fの廃止措置に向けた放射性廃棄物の処理・処分方策とその安全性に関する技術的基盤の確立等に活用されます。



施設管理棟:事務所

第1棟:主にガレキ類、焼却灰、水処理二次廃棄物等の分析を実施

第2棟:燃料デブリ等の分析を実施



施設管理棟概要

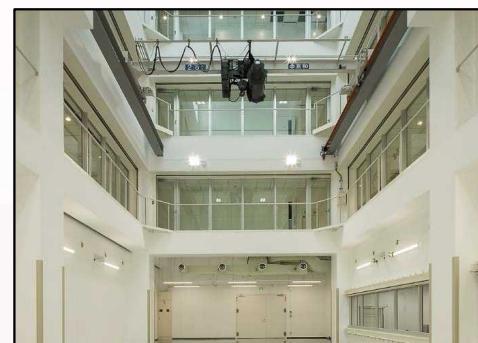
- 施設管理棟は、事務室、会議室、ワークショップ等から構成され、第1棟、第2棟の円滑な設計、建設及び運用に資する施設で、放射性物質は取り扱いません。
- 1F関係者と密に協議し、施設整備、分析マニュアルの作成等を行う拠点として活用します。
- 施設管理棟を拠点として、これまでに得られた分析データの集約と1Fサイト内施設の状況等を把握し、分析データと施設情報を関連付けた解析を行います。また、1Fサイト内の情報を反映し、分析試料の適正な選択等を行い、廃炉工程における分析作業の効率化を図ります。
- ワークショップには、工作機器や模擬鉄セル、グループボックス、ヒュームフード等を設置し、分析作業のモックアップを行う場として活用します。また、分析技術者育成を目的に、マニピレータやグローブボックスにおける分析作業の手順を習熟するための訓練を実施します。



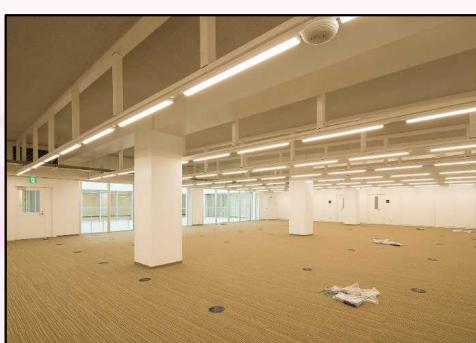
施設管理棟内写真



①全景写真



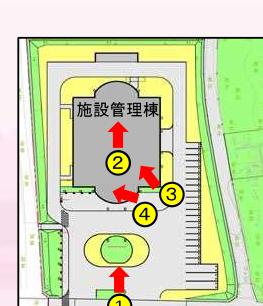
②ワークショップ



③JAEA職員室



④風除室



【凡例】
← : 撮影方向

施設管理棟開所式

日時：2018年3月15日（木）13:45～15:00
場所：福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原5番
大熊分析・研究センター
参加者：約200名

【来賓の方々】

- ・武藤経済産業副大臣
- ・浜田復興副大臣
- ・新妻文部科学大臣政務官
- ・鈴木福島県副知事
- ・吉田福島県議会議長
- ・渡辺大熊町長 等



開所式会場



来賓のご挨拶
(武藤経済産業副大臣)



テープカット式



4

施設管理棟の今後の運用計画

- 平成30年3月15日より運用を開始した。
- 第1棟の建設工事の管理、第1棟の運用開始に向けた東京電力HDとの各種調整や規則・要領類の整備等を実施する。
- ワークショップを活用し、分析作業のモックアップや、分析手順の習熟訓練を進める。



5